

しずおか愛護

静岡県知的障害者福祉協会 発行

No.53

第33回愛護ギャラリー展特集号
令和6年度施設長等研修会報告他



目次

☆巻頭言	静岡県知的障害者福祉協会副会長			
	社会福祉法人 遠浜会	ほっと	施設長	家込久志
☆令和6年度施設長等研修会報告			事務局長	増田吉則
	各分科会報告			各部会長
☆地域移行促進事業		地域支援部会部会長		矢代 啓
☆第33回愛護ギャラリー展報告		文化担当理事		飯塚友紀
		各部門の金賞受賞者の皆さん		
☆雑感		輝望会のぞみの家		鈴木俊也
☆アンケート				

巻頭言



知的障害者福祉協会 副会長 家込久志
【社会福祉法人 遠浜会 ほっと 施設長】

新しい年を迎え新たな気持ちで生活を送られていることと思われます。本年も宜しく願い申し上げます。

能登半島地震から1年。時間の速さを感じながら被災地における復興状況に目を向けますと、日常を取り戻すためにはまだまだ時間がかかりそうだと伺っております。一日も早く日常を取り戻せますよう祈りつつ、自分たちに出来る事を改めて考える必要性を感じております。県内においても安否確認システム「アンピック」の導入がされました。その仕組みを活用しつつ、具体的な行動と、何を準備していくかが今後の課題になると感じております。何気ない毎日をその暮らしを続けていく上で備えをする事はもちろんのこと、何が必要で何を大切にしていけるのかを再考する機会とも考えております。利用者さんの暮らしを支え続けていくための課題。そこには現地に行かれ支援にあられた方々やその体験者から学ばせていただくことが必要になるとも感じております。そのためには様々な方からその知識やノウハウを学び、年齢や立場などを超え個々の力を集結させていくことが組織の力になると考えているところであります。学び続けていくことが明日に向かう知恵となる事を心に秘め、触れ合う機会を大切にしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

令和 6 年度施設長等研修会報告

報告者：事務局長 増田吉則

令和 6 年度の施設長等研修会は、会員施設・事業所の施設長や管理者の方々など、約 120 人が参加して、下記のとおり開催されました。

参加された施設長・管理者の皆様、講師の厚生労働省発達障害対策専門官の西尾大輔様、中央情勢の報告者の（公財）日本知的障害者福祉協会副会長の榎本博文様、質疑応答を担当いただいた古橋誠研修専門委員長及び施設種別支援スタッフ委員会の皆様＝夏井佳純委員長（富士見学園）、渡邊博代委員（安倍学園）市川真知子委員（富士市立くすの木学園）、塚本啓太委員（わかふじ）、中村和也委員（のぞみの家）＝、旅行代理店の陸富カンパニー株式会社の浅賀克彦様、HMI ホテルグループの前田幸範様、会場のグランドホテル浜松のスタッフの皆様、その他ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

さて、今回の研修でも、質疑応答は、ICTを活用し、スマホから Google フォームにより質問を投稿していただく形式を採用しました。これは、今回と同じグランドホテル浜松を会場に、「第 63 回東海地区知的障害関係施設長等研究協議会」が 9 月に開催されることから、その予行演習を兼ねて実施したものです。なお、会場からの発言を求める参加者もおられましたことから、9 月の「本番」に向けて、対応について検討していきたいと思えます。



開会のことば：静岡県知的障害者福祉協会
匂阪 恭子 副会長



主催者挨拶：静岡県知的障害者福祉協会
天良昭彦 会長

西尾様のご講演では、中核的人材養成研修の大幅な定員増を求める要望のほか、

- (1) 中核的人材養成研修の大幅な定員増を図る上での課題
- (2) 令和9年度からの開始が予定されている、各都道府県での中核的人材養成の進捗状況
- (3) 障害特性のアセスメントなどの実務における、簡易版によるオンライン研修の実施の是非などについての質問が出されました。



講演：厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部
障害福祉課
地域生活・発達障害者支援室 発達障害対策専門官
西尾大輔 様

榎本副会長による中央情勢報告では、主食の米の急騰などを受け、国への再度の物価対策の働き掛けを求める要望のほか、

- (1) 2025 春闘における民間企業の賃上げ要求や、福祉職との賃金格差拡大等を踏まえ、日知協としての対応方針
- (2) 令和7年度に行われる障害者支援施設や居住支援に関するあり方検討や、入所施設がなくなるのではないかと不安の声などに対する、日知協としての基本的な考え方
- (3) 施設の老朽改築に関して、予算額が少なく国県補助金の採択が非常に厳しい状況についての日知協の認識などについての質問が出されました。

中央情勢報告：日本知的障害者福祉協会副
会長 榎本博文 様



☆☆☆☆☆☆——> スケジュール <——☆☆☆☆☆☆

日程：令和7年1月23日（木曜日）～24日（金曜日）

会場：グランドホテル浜松（静岡県浜松市中央区東伊場1丁目3-1）

【第1日目】令和7年1月23日（木曜日）

<講演> 【飛鳥】

講師：厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課

地域生活・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 西尾大輔 様

演題：強度行動障害の状態像にある方への支援施策

<中央情勢報告> 【飛鳥】

報告者：（公財）日本知的障害者福祉協会 副会長 榎本博文 様

<情報交換会> 【鶴の間】

【第2日目】令和7年1月24日（金曜日）

<分科会>

第1分科会 児童発達支援部会【千歳】

第2分科会 障害者支援施設部会【飛鳥】

第3分科会 日中活動支援部会【萩（中）（東）】

第4分科会 生産活動・就労支援部会【萩（西）】

第5分科会 地域支援部会【末広】

第6分科会 相談支援部会【VIP ラウンジ】



整理した質問を読み上げる静岡県知的障害者福祉協会 古橋 誠 研修専門委員長



開会前の準備を終えた支援スタッフの皆さんと古橋研修専門委員長（左端）

第1分科会（児童発達支援部会）

児童発達支援部会は、通所・入所あわせて13名が参加し、分科会を行いました。

通所では、児童発達支援センターの中核機能として求められる役割について、子育て支援広場の運営や、巡回訪問支援、保育等訪問支援、地域学習会の企画運営など、様々な実践について報告がありました。課題としては、保護者の就労支援として預かりニーズが増していることや、地域の保育所等との連携がより一層求められていること、職員不足や育成の困難さから、施設外支援を担う人材が足りていないこと等が挙げられました。また、地域によっては、少子化の影響から定員が埋まらないといった運営上の課題も挙げられました。

入所では、高等部卒業後の移行支援において、障害者支援施設やグループホームに空きが少なく移行先確保に苦心していることや、事業所実習や宿泊を伴う体験に伴う支援業務の増加、日常の支援で疲弊する職員への対応などが話題に上りました。

通所・入所ともに、職員不足が深刻化しつつあり、人材確保や育成への対応が急務であるという課題意識を共有しました。これに対して、職場環境の改善や業務内容の再考、職員のモチベーション管理等、それぞれの施設が思考錯誤しながら解決策を模索していることが伺えました。

児童発達支援部会長 仲安寛元



第2分科会（障害者支援施設部会）

中央情勢報告の中から入所支援施設に関連する事項を抜粋して入所施設が今後抱える問題や要望事項についてお話し、東海地区会としては南海トラフ巨大地震に備えて被災した際の早い段階からの受援の体制づくりを進めながら広域支援の重要性について話し合われていることを報告しました。大井川寮の阿部施設長から運営指導の報告があり重点的に確認していた事項や気を付けるべきことの情報共有を行いました。その後災害相互支援Bフェーズのグループごとに各施設で抱える問題など意見交換を行いました。

障害者支援施設部会長 匂阪恭子



第3分科会（日中活動支援部会）

日中活動支援部会では、今回情報提供ということで静巖 IT ソリューション長谷川氏、ND ソフトウェア渡邊氏、静岡銀行外川氏を招き講習会を行った。内容は次の通り。

現場の業務と事務的な業務の割合について。60%位が事務的な業務だと言われている。

介護で導入されている LIFE の加算、入所施設では 8 割、通所では 3～4 割の取得率。障害福祉にも波及してくる可能性の他、安否コールへの汎用性もある等の説明を受ける。

その他、報酬改定後の運営状況や採用状況・施設での課題等の情報共有を行う。

日中活動支援部会長 家込久志



第4分科会（生産活動・就労支援部会）

就労選択支援事業では、資格取得のための研修・人員配置等情報が少ないため判断で難しい。人材確保では、スーパーや送迎車に募集広告、新卒をターゲットとし福祉大以外に心理系の学部へのアプローチ等工夫を行っている。定着では給与体系の明確化や人事考課での数値化、職員アンケートの実施等行っている。また、職員に何を求めるのかでターゲットを絞り込む必要性もある。サイバーセキュリティでは、連絡ツールやウィルス対策について情報共有を図った。

生産活動・就労支援部会長 溝口弘志



第5分科会（地域支援部会）

地域支援部会分科会では、令和7年度より義務化される地域連携推進会議における各事業所の進捗状況について共有しました。会議構成員として市町村との調整が進んでいない報告が数多く上がりました。また、今年度の報酬改定により多くの事業所が減算となり厳しい経営に陥っている状況が報告されました。人材不足の課題も改善されないまま常態化しています。課題は山積していますが、一つ一つと向き合っていきましょうと最後は決起集会のような形で分科会を終えました。

地域支援部会長 矢代 啓



第6分科会（相談支援部会）

今回は4名の出席者により、重層的相談支援体制の状況、基幹相談センターの役割、人材育成の方法などを意見交換しました。自身が対応している事例を2件相談させて頂き、ご本人のヒストリー、アセスメントを確認する重要性、また事例検討の目的を多岐に設定でき、それもまた人材育成になることを学びました。これからも参加者が学び合える分科会となるようにしていきたいと強く感じました。

相談支援部会長 飯塚友紀



地域移行促進事業 令和6年度世話人等業務セミナー&合同説明会

地域支援部会部会長 矢代 啓

本事業は静岡県からの委託を受け実施している事業となります。地域移行促進事業の一環として世話人等業務セミナー&合同説明会を開催、実施しています。

事業の趣旨として、慢性的に続く福祉業界の担い手不足があり、当然グループホームも例外ではない状況です。グループホームの整備が進まない状況にもあり、障害のある方々が安心して、自分らしく地域で生活していく為に、その生活を支える役目を担う、「世話人」、「生活支援員」を確保することが不可欠であり、その為の本事業となっています。

利用者の多様化により、世話人や生活支援員の業務内容も変化し多岐にわたる状況が生まれています。セミナーでは参加者に障害理解、グループホームの概要、業務内容をわかりやすく説明、グループホームの見学会等を通し、まずは知ってもらうということを重視し行っています。

今年度は県内3カ所で実施し、また、新たな試みとして希望者を対象に世話人等業務体験事業も行います。成果がなかなか出にくいところもありますが、障害のある方々を支える人材確保を目指した取り組みを続けて行きたいと思えます。

東部会場の様子

東部地区は、1月11日に三島市商工会議所を会場として開催しました。静岡県障害者政策課増井課長からの挨拶ののちに、(福)輝望会のぞみの家 鈴木施設長による知的障害者の特性及びグループホームの概要説明があり、続いてブース出展事業所(見晴学園・輝望会・インクルふじ・城ヶ崎いこいの里・社会福祉人材センター・クララ寮)等から事業所説明を行いました。説明後は希望者による見晴学園の見学を行い、グループホームに対する理解を深めていただきました。

【東部地区責任者 そびな寮 望月克仁】



中部会場の様子

令和7年2月22日土曜日に静岡市のグランシップにおいて、「世話人等業務セミナー&合同説明会」が行われました。まず最初に地域支援部会副部会長の大塚信乃さんより「知的障害者とは？グループホームとは？」について、セミナー参加者への説明をさせていただきました。その後、2つの法人から5名のGHで生活する利用者の方に参加していただき、実際にどのように生活されているのかをインタビュー形式でお話していただきました。

参加法人は5法人でブースをそれぞれ設けて説明を行いました。少し参加者の方が少なかったのが残念でしたが、ブースでは色々な質問もでて、今後の就職につながるお話ができたと思います。【中部地区責任者 望未園 大澤将孝】



西部会場の様子

今回で3年目の世話人等業務セミナー&合同説明会ですが、西部地区は今年度が初めての開催となりました。令和7年2月8日に掛川会場として社会福祉法人掛川芙蓉会の掛川工房つつじの事業所をお借りし開催しました。知的障害者の特性及びグループホームの概要説明から始まり、各ブースに分かれての説明会、グループホームの見学を行いました。参加者は9名でしたが、緊張と和やかな雰囲気のもと、質問も多く出され皆さん熱心に参加されている様子が伺えました。一人でも多くの方が私たちの仲間になってもらえたらという想いと共に、この度の会を終えました。【西部地区責任者 オランチ 矢代 啓】



第33回 愛護ギャラリー展を終えて

文化担当理事 飯塚友紀

(サポートセンターコンパス北斗)

今年度の愛護ギャラリー展はグランシップにて、令和6年12月3日の作品搬入及び審査会・講評会から始まり、4日間展示飾りつけ、5日開会式、9日までの一般公開及び搬出という日程で開催されました。昨年度より約40点多い、421作品の出展がありました。開会式には、ご来賓の方々にもご出席を賜り、励ましのお言葉を直接頂き、受賞者の方々も大変嬉しそうにされていました。

今回はギャラリー展開催記念としてサールナートホール様との共催で、映画『日日芸術』上映会を開催して頂きました。全国にてアート活動で活躍されている方々のご紹介をしている映画内容で、個性あふれる作品・活動を学ぶことができました。このような機会を作って頂き、ありがとうございました。

今回のしずおか愛護には、受賞された方の喜びの声、制作に至る感想がよせられるとお聞きしています。私自身もとても楽しみにしています。

たくさんのご支援ご協力を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

絵画部門



県知事賞「ネモフィラ畑で遊ぼう！」菊川寮 松本五十美さん

作品を作るにあたって本人と相談し、題材を決めて印刷した写真を参考に画用紙に描き始めてもらいました。様々な青色のポスターカラーを使用して花を描き、空には風船を仕上げました。絵を描いている最中は集中して描いている時と、自身の思う様に描き上げる事ができず、イライラしたりポスターカラーの乾燥待ちをしたりと自身のペースで書き上げています。毎週の絵画療法にしっかり参加する事ができ、日々の積み重ねが今回の受賞に繋がったと思っています。



賞がとれてとてもうれしかったです。おにいちゃん、お姉ちゃんも喜んでくれて、絵(写真)をうちに飾ってくれました。麒麟の絵は、本を見て書きました。鉛筆でかいたあと、たくさんのマジックを使って色を塗りました。大変なことはありません。描くことは楽しいのでこれからも頑張りたい。次は貼り絵もやってみたいです

静岡市長賞 「きりん」 ルーチェ仰陽 小林照代さん

県福祉協会会長賞

「鳥」富岳の郷 西岡厚子さん



絵を描くことが好きです。お話を伺いに居室を来訪した際も、絵を描かれていました。建物や動物などモチーフが色々ある中では「鳥の絵を描くことが好き」と言うことでしたが、「何の絵」を描くことが好きですかという質問に「難しい絵を描くのが好き」と答えられていました。
絵画の他にも、編み物や工作など芸術活動を好まれ、ご自分の時間を楽しまれています。

陶芸部門



県知事賞 「お野菜いかが？」菊川寮 大庭久枝さん・大木知子さん

受賞結果に大庭久枝さんは「よかったね。楽しかったね」大木知子さんからは「うん」とだけの返事でしたが、仕上がった作品をまじまじと見ている姿が印象的でした。作ったものを合わせた時はこんな大きなものを作ることができたのだと驚きました。2人ともコツコツと進める力が今回の作品・受賞につながったと思います。これからも彼女たちの持つ力を作品として表現できるように一緒に頑張っていきたいと思います。



静岡市長賞 「木の葉皿」菊川寮 Bユニット共同作品

菊川寮 B ユニットで利用者様たちより「作品を作りたい！」という声上がり、陶芸作品に挑戦しました。作品にあう葉っぱ選びから始まり、葉を綿棒で粘土に型つけ切り分け生計を行いました。作り出した作品の上には、かわいい陶器の人形がいます。参加した利用者様に自身の日頃の姿を作ってもらっています。個性豊かな作品ができています。利用者様より「楽しかった」と感想を頂き、作業後はすっきりしたよい笑顔をみることができました。



県福祉協会会長賞 「人形と置物」富士明成園 富士旭出学園陶芸グループ

小割祥嗣先生の指導の下、陶芸が好きな利用者様が集まって活動をしています。粘土を使って自分の好きな形に成形しました。棒や板等の様々な道具を使用して工夫を凝らしているのです、独創的なアートになっています。

工芸部門



県知事賞 「野生のちから」富岳の郷 鷲尾祐一さん

この作品で一番時間がかかったのは鳥の身体を作る時でした。新聞紙を丸めて(ボンドで)固めて、その上からまた新聞紙を被せて丸めて固めてを繰り返して、少しずつ大きくしていきました。作品の形を変えてこれからもいろいろな作品を作っていきたいです。



静岡市長賞 あいあい学園「THE SHIZUOKA」TEAM あいあい

THE SHIZUOKAはTEAM あいあいとして7名の利用者さんによる共同作品です。リーダーの名坂美鈴さんにインタビューしました。

Q:受賞、おめでとうございます。A:やったネ!

Q:楽しかったところは? A:私は富士山を頑張りました。富士山が好きなので作っていて楽しかった。

Q:最後に。A:次もまた金賞が取れたらうれしい!

今回の受賞を通して、利用者さんの作品作りの楽しみ・喜びが高まっています。ありがとうございました。



県福祉協会会長賞

「阿修羅観音」

安倍学園 田中琉生さん

僕は、阿修羅観音の表情に迫力を感じ、角度によって違って見えるところが格好いいと思います。腕がたくさんあるところも印象的で、古い時代にどうやってこのような像を造ったのだろうと想像します。工夫したところは、指や顔は特に集中して、丁寧に掘りました。一度間違えると、初めからやり直しになるので緊張しました。受賞できてとてもうれしいです。この喜びを母と妹に伝えたいです。来年は段ボールで立体的な作品作りに挑戦したいです。ありがとうございました。

